

あそかビハーラクリニック便り

生憂樹

第 1 号

2012.10.1 発行 あそか第2診療所
〒610-0116 京都府城陽市奈島下ノ畔3-3
TEL 0774-54-0120 FAX 0774-54-0121
E-mail:sinryo@asokavihara.jp



院長 大嶋健三郎

あそかビハーラクリニックはホスピス緩和ケアを行うビハーラ施設です。日本において、仏教が単独でホスピスを作り上げようとする、初めての場所です。僧侶と医療者の連携と相乗効果の本気で作り上げる場所です。「和み」「あたたかさ」を誇りにできるよう、精いっぱい努めています。医療の責務を最大限果たしたうえで、私たちは人と人のつながりを大切にしています。

今回この「あそかビハーラクリニック便り」を発行するに当たり、多くの人にビハーラクリニック（仏教ホスピス）をご紹介したいと思っています。この便りは当クリニックスタッフが、「生」から「死」を、「死」から「生」を考えながら、深刻な病気に直面された患者さん・ご家族の笑顔に尽くす現場から発信していきます。

看護師長 新堀いづみ

ホスピス・緩和ケア病棟って？と尋ねられたときに私は「より良く生きていただくところ」とお答えしています。痛みや辛さを緩和し当院の理念である「ぬくもり」と「おかげさま」のころを提供させていただける場所。ある時は笑い、そして涙し、面会のわんちゃん達にスタッフも癒され、秘伝のレシピを教えて頂いたり。あそかには穏やかな日常があります。皆様の心に手が届く、そんなケアを目指しています。

常駐僧侶 花岡尚樹

病院の中にお坊さんがいるって、少し違和感がありませんか？でもそんなことはありませんよ。宗教を強制したり勧誘したりすることはありませんのでご心配はいりません。

僧侶は散歩のお手伝いなど、日常のどのようなことでもお手伝いさせていただきます。また、ご病気になられた様々な不安なお気持ちなども、僧侶がお話を聞かせていただきます。貴重なお時間を皆様と笑顔で過ごしたいと思ひます。

あそかビハーラってどんなところ？

Q：あそかビハーラクリニックってどんなところ？

A：「あそかは家である」そんな想いのもと、《ホスピス・緩和ケア》を提供する病棟として京都の南に誕生しました。がんとともに生きる方々に、「ぬくもり」と「おかげさま」の心で、安らぎのある医療を提供し、その人らしく生きるお手伝いをさせていただいています。

Q：ホスピス・緩和ケアとは何ですか？

A：ホスピス・緩和ケアというと、死を待つ所という暗いイメージがありますが、最近では「がんと診断されたら、緩和ケア」といわれるほど、早い時期から緩和ケアは必要とされています。がんに対する根本的な治療と同時に、ホスピス・緩和ケアは身体の痛み、そして心の痛みなどを「緩和」し、その人らしさを支える医療をいいます。

Q：がん治療と緩和ケアは違うと聞きましたが…？

A：一般的に、がん治療とはがんの進行を抑える治療（抗がん剤治療、放射線治療、手術など）のことをいいます。

緩和ケアもがん治療の一部ではありますが、主にがんによる痛みや様々な辛い症状を和らげることが大切にしています。



あそかの周りには自然が多く、静かな環境で、落ち着いて過ごすことができます。また、建物は平屋建てで大地に根ざした安心感があります。各病室から庭に出ることができ、季節のお花を楽しむことができます。



院内には調理器具がそろったファミリーキッチン（談話室）があり、ご自由に利用していただくことができます。すき焼きパーティーやたこ焼きパーティーなど、ご家族そろって楽しいひとときを過ごしていただけます。また、24時間いつでも面会に来ていただくことができますし、ペットの面会も可能です。ペットも家族の一員ですものね。

Q：具体的にホスピス・緩和ケアではどのような医療・ケアをうけられるのですか？

A：私たちは「その人らしく生きる」ことを支えるために、がんに関連した痛みや息苦しさ、だるさなどをできる限り取りのぞきたいと思っています。そのためにも、お薬で抑えられる症状に対しては、その人のそのときの状況に応じたお薬を適切な量で使用いたします。

それとともに、療養生活における様々な面での工夫を施すことで、穏やかな日々を過ごしていただけるように援助いたします。

また、お体の辛さはなくても、強い不安や心の元気がなくなったときには、当院のスタッフが患者さん・ご家族に寄り添うことで心のケアにつとめています。

Q：「その人らしさを支える」とは、どういうことですか？

A：人にはそれぞれに磨かれた宝石のような輝きがあるものです。私たちは、「病気だけを診る」のではなく、「その人らしさを看る」ことを大切にしています。そして患者さんの思いに耳を傾け、



あそかのお食事。自分で食べたいという気持ちを支え、スプーンにおかずをのせてみました。その人のその時に応じたお食事の提供を、心がけています。

その人の物語を紡ぎだすお手伝いをさせていただきます。

そのために、医療スタッフだけでなく、ビハーラ僧やボランティアなど多職種チームをつくります。この私たちのチームが、患者さんとそのご家族を様々な角度から支え、生活の質を向上させ、生きる力をとり戻すことにつとめています。

Q：どのような方が入院できますか？

A：緩和ケアは患者さんがどのような病状・時期であっても受けることができます。

当院ではがんに伴う様々な苦痛をお持ちの方や治療が困難になった方が主な入院の対象となります。その他にもお困りなことがあれば、まずはご相談ください。

Q：入院費は高いのですか？

A：一般病院に入院される場合と同じように、ご加入されている各種健康保険が適用され、高額医

療費の助成も受けられます。また、一か月の費用には、医療費のほかに個室利用料やお食事の費用などが別途かかりますので、詳細についてはお問い合わせください。

Q：ふつう、病院にはお坊さんはいませんが、ここにはいらっしゃるそうですね？

A：はい。当院の母体である浄土真宗本願寺派（西本願寺）の僧侶がチームの中におります。僧侶は患者さんご自身の信仰を尊重し、宗教にとらわれない関わりから生まれる「ご縁」を大切にさせていただいています。そして、医療とは違った側面から患者さんとご家族に寄り添い、共に悩み、苦しみに耳を傾けながら、ともに「いのち」を見つめていこうとつとめています。



ビハーラホールでは朝と夕方に勤行があり、自由にお参りすることができます。ベッドでお参りされる患者さんもおられます。

ホールでは他にもコンサートなど様々なイベントも開かれます。

入院までの流れ

電話相談

緩和ケア外来予約

※まずはお電話ください。外来受診に必要な書類のご説明や、外来受診日を決定します。

緩和ケア外来

※患者さんご本人が受診できない場合は、ご家族のみの受診でもかまいません。
(相談料は自費になります)

入院判定

※外来受診後、入院の適応かどうか判断し、ご連絡いたします。

入院

※入院後は、ご家族と共に院内のスタッフが精いっぱいサポートさせていただきます。

がんでお悩みの方や、入院のご相談、またはご不明な点など お気軽にお電話ください

あそか第2診療所（ビハーラクリニック）

TEL 0774-54-0120 担当：奥田（メディカルソーシャルワーカー）まで

見学をご希望の方は

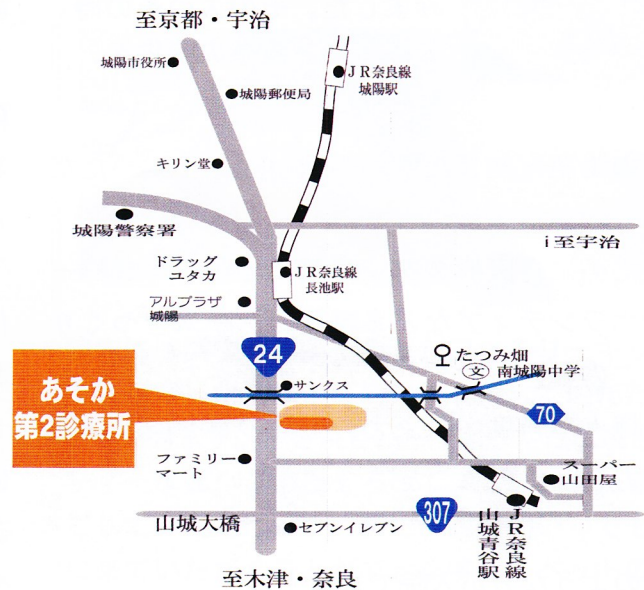
どのような施設か一度見ておきたいという方は、事前に予約が必要となりますので、まずクリニックまでお電話ください。また各種研修も受け入れていますので、ホームページをご確認の上、お申し込みください。

ボランティアさんの募集

あそかの一員として活動していただけるボランティアさんを募集しています。活動の内容は、ティーサービス・ガーデニング・生花の手入れ・朗読・アロマセラピーなどがあります。院内で活動していただくボランティアさんは、5月と11月に実施しているボランティア研修を受講していただく必要があります。ホームページをご覧くださいか、クリニックまで直接お電話ください。



交通アクセス



お車の場合

- ①京都から：国道1号線より
国道24号線（京都駅から約1時間）
- ②大阪から：国道307号線を通して
山城大橋を越え、国道24号線を北
- ③奈良から：国道24号線を北へ



電車の場合

- ①JR 山城青谷駅下車、徒歩 15分
- ②近鉄 新田辺駅より、タクシーで15分
- ③JR 京田辺駅より、タクシーで15分
- ④JR 城陽駅より、タクシーで15分

編集後記

平成20年4月、仏教ホスピスとして、京都府城陽市に「あそかビハークリニック」が開院して、早くも5年目を迎えました。「あそか」では、現在、診療所から病院化へ向けて、準備が進められています。

これまでを振り返ると、多くの患者さんやご家族に出会い、涙の中にも様々な笑顔も見せていただきました。

そしてまた、たくさんの「ありがとう」のお言葉を聞かせていただきました。

そのような皆様の笑顔や感謝のお言葉が、私たちスタッフを励まし、そして、支えてくださったおかげで、現在の「あそか」があるものと感じております。

あそかでは病院化に向けて、ますます地域と密着し、安らぎの医療を実践できるよう、つとめてまいります。

今後ともよろしくお願いたします。(花)